

白山ふるさと文学賞

第十回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

中高校生作文の部 優秀賞

# 将来の夢に向かって

鶴来高校三年

石倉 いしくら

真理子 まりこ

オリンピックの開幕、コロナ感染拡大。開催にあたっては様々な方面からいろいろな意見があり、私自身としては、あちらの立場、こちらの立場、どちらの意見にも云々とうなずきながら、無事に閉幕を迎えられることを祈った。テレビでは、汗と涙とメダルと笑顔。お互いを讃え合う姿に感動し、新聞では、コロナ感染者数を確認しながら、誇らしい笑顔のメダリストに拍手をおくる。ただし、「平和の祭典」であるはずのオリンピックで、亡命せざるを得ない選手がいたことはとても残念だ。また日本では、人種、肌の色、言語、宗教、あらゆる面での違いをこえて、多様性と調和の大会理念のもと、すばらしい戦いが繰り広げられているにもかかわらず、一方では内戦により国を追われ、傷つき途方に暮れ、悲惨な戦いや光景が繰り広げられている。人間社会は、何て不条理で不可解な世界だろう。

先日起きた電車内での痛ましい事件についても考える。あまりにも身勝手な理由と行動に戦慄を覚える。何故そのような心情に至ったのか、何があのように残忍な行動に走らせたのか理解できない。また、被害にあった人の心の傷の深さは計り知れない。

社会全体で取り組んでいるかのように思える、いじめや虐待の問題。なくならないのは何故だろう。社会が取り組みを声高に唱えれば唱えろ程、問題は奥深くに潜り、対応の不手際ばかりが際立つ。

パワハラ、モラハラ、セクハラ、女性蔑視。発言が取り上げられ発言者が攻撃の対象とされるが、メディアはこぞってやり玉にあげることに関心を注いでいるだけのように見える。人間社会とは何と複雑で、人間とは本当に不可思議な生きものだと思う。

高校三年の今、進路を決めるにあたり、私は人間の心理を追究したいと思っている。ささいなことがきっかけで、心理学という学問に興味を持ったが、今は心理学を学び、将来は人の心に寄り添う職に就きたいと思っている。

文明の進歩、産業の革命そして急速な発展は、人類の暮らしを便利に

し、豊かにした。しかし、自然破壊、環境汚染などの大きな代償を私達は課せられている。まだまだ発展し続ける社会。機械化、ロボット化がもてはやされ、オートメーションがさらに進むことだろう。自然と、環境に配慮した研究・開発が進められていくことと思う。しかし私は、人間と人間のつながり、人の心がとり残されはしないかと心配だ。身近なことで言えば、ネット注文、セルフレジ、タッチパネルでの対応や無人コンビニの導入。迅速で便利、人件費の削減。特にこのコロナ禍においては、接触の回避、多くの利点が挙げられる。しかし、人との触れ合いが（それはささいな触れ合いかもしれないが）減るのも事実だ。人間関係が希薄になっていくのは避け難いことだと思う。

先日、久しぶりに回転寿司へ行き、店から出た母と私は顔を見合わせ、首をかしげた。自動支払機での会計がしつくりこなかったから。いつもは、「ごちそう様」と言って伝票を出し、店員さんは「ありがとうございます」と言って金額を告げる。「おいしかったです」と言って支払い、「ありがとうございます」と言いました」の言葉でおつりを受け取る。私もごちそう様でしたと挨拶をして母の後に店を出る。そこには笑顔がある。シュッとお札が吸いこまれ、ジャランと出てきた小銭をつかんで店を出る。その無機質な感じに、お腹はいっぱいでも、気持ち満足できなかった。私は知っている。熱がある時、サツと体温計をさし出されるより、そつとおでこにあてられる手が、いかに心を包みこんでくれるかを。手から伝わる温もりが愛情だからだ。落ち込んだ時、ポンと肩をたたくてくれる友の手。顔をあげて前を向く元気が出る。手から伝わるのは愛情だ。

また、角ばった固い文字のラインでのやりとりより、強弱、大小、抑揚のある声のほうに気持ち分り合えることを。

人は不思議な力を持つ。人と人とのつながりは、人知れず大きな力を発揮する。それは良い力にも悪い力にもなり得る。私はそんな人間という生きものに向き合い、心について学びたい。そして将来、学んだことを生かして人に寄り添える職に就きたい。

革新的に世の中が便利になっていくのと同時に、人の心も豊かにならなければいけないと思う。豊かな心は人と人が、それは親子・友人・隣人、ひいては国と国が良い関係を築いていく礎となるだろう。

残忍な、残酷な、そして悲哀に満ちた出来事や事件が少しでもなくなりますように。そんな祈りと希望を持って、学問に取り組み、将来の夢に向かってつき進みたいと思う。

